
福島県知事 内堀 雅雄

「被爆76周年原水爆禁止世界大会・福島大会」の開催に当たり、御尽力された実行委員会の皆様を始め、関係の皆様には深く敬意を表します。

また、皆様には、東日本大震災以来、様々な御支援を頂いており、改めて厚く御礼を申し上げます。

福島県では、平成12年7月の「非核平和福島県宣言」により、核廃絶と世界平和を希求していくことを決議したところであり、今後も皆様や世界の国々と手を携えながら、県民と共に世界の恒久平和に向かって歩みを進めてまいりたいと考えております。

震災と原発事故から10年余りが経過いたしました。今もなお、多くの方々が避難生活を続けておられるほか、避難地域の復興や被災者の生活再建、廃炉と汚染水・処理水対策など、福島県は様々な課題を抱えております。

今年6月には、福島第二原子力発電所の廃炉作業が開始されました。引き続き、県民の強い思いである県内原発の全基廃炉に向けた取組が着実に進むよう国と東京電力に求めるとともに、再生可能エネルギーの飛躍的な導入と関連産業の育成・集積による「原子力に依存しない安全・安心で持続可能な社会」の実現に向けて、しっかりと取り組んでまいりますので、皆様には、今後とも御支援、御協力をお願い申し上げます。

結びに、本大会を契機として、核兵器廃絶に向けた取組が一層進展することを期待いたしますとともに、皆様の御活躍、御健勝を心からお祈り申し上げ、挨拶とします。

福島市長 木幡 浩

被爆76周年原水爆禁止世界大会・福島大会にご参加の皆様をはじめ、永きにわたり恒久平和の実現に取り組まれてきた関係者の方々に深く敬意を表します。

広島・長崎での原爆投下から76年が過ぎようとしています。その惨禍を二度と繰り返さないためには、どれほど多くの犠牲があったのか、後世に語り継いでいくことが重要であります。

福島市では、核兵器の廃絶・軍備縮小と世界の恒久平和の実現を願う市民の意思の表明といたしまして、昭和61年に「核兵器廃絶平和都市宣言」を行い、核兵器廃絶を訴えて参りました。

また、東京電力福島第一原子力発電所の事故による被害に対しては、健康管理や風評払拭などの課題への対応や、除染に伴う除去土壌の中間貯蔵施設への輸送の早期完了を目指すとともに、夢と希望が持てる福島市の新たな復興創生ステージに向け取り組んでいるところであります。

将来を担う子どもたちの健康と安全で安心な生活環境を確保するためにも、原爆並びに原発事故のような過ちが二度と起きないことを切に願ってやみません。

核兵器禁止条約が発効した今、皆様方の行動により、さらに多くの方々の平和を願う気運が高まり、人類共通の念願である核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けての大きな力となるものと確信しております。

最後になりますが、この大会の成功とご参加の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、私のメッセージといたします。